

《令和2年度》 児童発達支援山形コロニー ういる天童 保護者アンケート&自己評価 集計結果表
【情報公開用】

児童発達支援山形コロニー ういる天童では、事業所が提供するサービスの質について、評価・点検を実施しました。より良いサービス提供を目指すとともに、自己評価を公表することで、地域のみなさまに安心して利用していただくことを目的としています。

なお、この自己評価表は厚生労働省が定める「児童発達支援ガイドライン」をもとに作成した「保護者向けアンケート」の回答結果、及び自事業所の自己チェックとなる「事業所向けアンケート」の意見等を踏まえ、「自己評価」としてまとめたものです。

○：おおむね良好といえる

▲：より良くしていきたい

×：改善が必要

		チェック項目	保護者向けアンケートによるご意見等	自己評価	改善目標・工夫している点など
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	○ 「ホールや庭など季節や天気にあわせて十分に活動できています」等との意見あり	○	・一人ひとりの療育活動の目標や課題設定等に応じ、人数等も考慮して個別～小グループで活動しています。施設には個室、教室、多目的ホール、庭等を設置。施設外にも、敷地に隣接する畠や公園、近隣地域の散歩等、日々工夫して大小様々な活動を提供しています。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	○ 「毎回十分な数のスタッフの方がついてくださり安心して通所できる」「何時も丁寧な対応をしてくれている」等との意見あり	▲	・定められている保育士等の配置基準は各ユニット2名ずつですが、当事業所は基準の倍以上の職員を配置しています。 ・職員は、保育士8名、児童指導員5名、社会福祉士2名、精神保健福祉士1名など、国家資格等を持つ職員を配置しています。 ・今年度は専門性向上のための専門研修に力を入れてきました。今後もより良いサポートができるよう、継続して取り組んでいきます。
	③	事業所の空間や設備等は、子どもたちの活動に合わせた環境になっているか。また、環境には分かりやすい工夫やバリアフリー等の配慮がなされているか	○	○	・当施設は、療育環境としての安心・安全と、全ての利用者にとって分かりやすい環境を追求した『構造化された施設』です。また地域福祉拠点として、障害のある方や高齢の方等、どなたでもアクセスしやすいバリアフリー環境です。
	④	生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか	○ 「いつも清潔な環境を保っていただきありがとうございます」「手洗い場付近がいつも濡れている」等との意見あり。	○	・毎日、施設や遊具等を適宜換気・清掃・消毒等をして清潔な環境を整えるよう心掛けています。 ・お子さんと一緒にいるためすぐ対応することが難しい面もありますが、職員が常に気付き清潔さを維持できるよう努めます。 ・送迎時等に待機する場の温度調節が必要なためエアコンを増設し、温度差が大きくならないよう整えています。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	－	▲	・毎日。朝夕のミーティングで共有・振返り等をしています。その日の活動の目標や目的を確認し、その後次回の活動にどういったことを反映させていくか全体で設定する等、PDCAの実践を日々行っています。 ・職員一人ひとりが、お子さんと向き合い、目標に沿ってより良い活動を広げていけるよう、継続して取り組んでいきます。
	⑥	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	－	○	・保護者の意見は、多くの気づきや学びに繋がっています。引き続き意見をいただきながら、具体的な対処方法や改善策等を模索し、より良い事業所づくりに努めています。
	⑦	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	－	○	・このアンケート結果をホームページで公表し、周知することで情報公開を行っています。
	⑧	第三者による外部評価を行い、調査結果を業務改善につなげているか	－	▲	・法人全体では、適切な事業所運営のために内部監査を実施しています。お互いにチェックし事業運営に必要な視点の意見を取り入れられるよう取り組んでいます。
	⑨	職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか	－	○	・法人全体研修や事業所研修等、年間研修計画に沿った職員研修を実施し、専門性の向上を図っています。 ・今年度はZOOMでの研修が主体でしたが、障害者権利条約や人権関連の研修等、内容も多岐にわたって受けることができています。 ・土曜職員研修も行い、基礎的スキルの定着やスキル向上、現状課題の協議検討、具体的なケースに応じた視点や取組の精査等、事業所内全スタッフで学ぶ機会を重視してきました。
支援計画	10	子どもと保護者のニーズや課題等を捉えた児童発達支援計画が作成されているか	○	○	・現状の課題や成長段階を客観的に確認し、達成できる目標を意識したプランニングをしています。今後も、保護者や利用児童等がどのような思いで通っているかに寄り添い、話し合う中で計画や活動に具体的な実践が伴っていくよう努めています。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	－	▲	遠城寺式発達検査表や独自のツールの作成等を用い、客観的評価で発達課題のエビデンスを確認しています。療育プランに適時反映していくための管理体制をより一層強化していきます。
	⑫	子どもの支援に必要な「発達支援」「家族支援」「地域支援」の項目が、児童発達支援計画で設定され、支援が提供されているか	○	○	・当事業所では、これらの項目が全児童の個別支援計画にもれなく位置づけられています。 ・計画書に基づいた目標の設定、活動の内容等を日頃から見直し適切なサービス提供へ繋いでいくよう確認をしています。

適切な支援の提供	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	—	▲	・療育活動等の設定は、全て計画に沿ったもので進めています。 ・計画に位置付けられた発達課題を、日常の療育活動の中で着実に重ね、達成していくよう計画に沿った支援管理体制の強化をより一層高めていきます。
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	—	▲	・個別支援計画に基づく活動プログラムの立案→検討→決定は、毎日のミーティングや週間ミーティングで、全チームスタッフの意見をもとに検討しています。次回の活動を、より良い機会にできるよう職員間で共有し、実践に努めています。
	⑮ 活動プログラムは、個々の計画等に応じた工夫がなされているか	○	▲	・活動プログラムは支援計画に沿い、活動を設定しています。個々の状況に応じて課題設定等を調整するなど、個々の達成可能な課題設定や活動の設定を重視しています。 ・同じ活動でも、課題の量や質等に個々の設定をよりきめ細やかに含めていけるよう個別支援体制の強化に努めます。
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	—	▲	・計画時において個々の成長や課題を見て個別・集団の活動設定を検討しています。そこからの成長、変化に伴い状況に応じた環境やグループ設定等を検討し、機会と経験を広げ、成長を応援しています。
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	—	○	・職員間で検討し作成した、日ごとの『支援管理表』を使用しています。確認する時間をもち、支援者の1日の動きや支援内容、役割等を具体的に伝達し合っています。 ・先々の見通しをもって内容等を確認できるよう作成方法等を都度検討しています。
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	—	▲	・支援終了後に毎日振り返りを行っています。支援の設定やねらいを活動の中で取組んでみて、気付いた点や次回に繋がる対応策等を小グループと全体とで意見交換等を話し合っています。 ・限られた時間の中で意見を共有し、具体的な方針を示せるよう日々改善していますが、より細やかな視点や気付きをもち実践していくよう続けていきます。
	⑲ 日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	—	▲	・職員には、支援状況等が正しく読み取れる記録技術を確認し、記載後の内容についても再確認をしています。 ・今後も記録をつける中で、質の向上や活動の検証ができるよう職員全体で目指していきます。
	⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	—	▲	・日常の母子活動中や、面談の場を設定する等して、保護者等から話を伺う機会を大切にしています。 ・通園先や関係機関等との連携を重視し、幅広い情報を共有した上でモニタリングできるよう努めています。
	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	—	▲	・主に児童発達支援管理責任者が参加しています。 ・保育士等も、外部会議等に出席し、計画に沿った報告や療育の場で見えている課題等を発信・検討する機会を、これまで以上にもっていきたいと考えています。
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	—	○	・市町村の母子保健担当者や発達相談室等と連絡や訪問を行い、お子さんの状況を見ていだいています。 ・今後も、療育での状況等を継続して伝え、相談できるよう続けていきたいと思います。
関係機関や保護者との連携関係機関	㉓ 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、地域の保健や医療、子どもの主治医、福祉や教育等と連携した支援や連絡を行う体制を整えているか	—	▲	・当事業所は、医療的ケアを要する児童を対象とした事業設定ではないため、体制や設備を整備していません。 ・医療的ケアが必要のない児童でも、医療等との連携の重要視し、必要によりかかりつけ医等と連携して支援を行っています。
	㉔ 移行支援として、保育所や幼稚園等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	—	▲	・保育園や幼稚園を併用する児童が多いので、年に数回は在籍園に訪問し、課題等を共有したり、互いの環境等を知る機会としても連携に努めています。訪問だけでなく連絡等も行い、共有できる機会を工夫しているところです。
	㉕ 移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	—	▲	・就学を見据えた療育活動は、当事業所が最も重要視している考え方です。対象となる児童は「就学移行プログラム」の通して、具体的な就学準備を進められるよう機会を提供しています。 ・保育園等を併用する児童が多いので、小学校等への移行連携は園が主体となる傾向がありますが、市町村と連携や、母子通所を通して見えた課題等を共有し移行先へ保護者から伝えています。
	㉖ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	—	▲	・地域の児童発達支援センターから助言を受けることはありません。また、地域で行われる各種研修には参加しています。 ・ケース等に対する専門的助言や、より望ましい療育の提供のための専門指導は、当事業所開設時から指導協力をいただいている専門医から継続して指導を受けています。 ・当事業所主催研修を継続する等、地域に対し望ましい子育てや療育の提案等について普及啓発をより一層努めています。

や保護者との連携	(27) 地域の方々との交流や、地域の中で活動する機会があるか	○ 「コロナのため活動する機会がなかった」等との意見あり。	▲	・今年はコロナ禍もあり、地域交流会「天童コロニー祭り」の開催を中止しました。コロナ禍が収束したら、交流事業を推進します。 ・感染症対策をとり「AED講習会」を開催し、保護者や地域住民の方に参加いただきました。 ・日常から地域を活動の場としており、挨拶等で顔を合わせる機会を大事にしています。また、隣接する公園は向かいにある保育園の園児と共有しております。
	(28) (地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	—	▲	・天童市自立支援協議会には、当事業所の施設長が委員の委嘱を受け参画しています。 ・昨年より相談支援部会が設置されました。今後、児童発達支援に関連する事業等があれば参画していきたいと考えています。 ・地域課題を確認し、解決の必要があれば問題提起できる事業所でありたいと考えており、今後、より一層地域の事業所等との連携を深めていきます。
	(29) 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか	○ 「いつも話を聞いてくださりありがとうございます。」「園での様子等も見ていただいてありがとうございます。」等との意見あり	▲	・「連絡帳」の活用や、母子活動時、お迎えの時等に保護者の方へ話をする時間を持てるよう取り組んでいます。 ・活動の様子を保護者と共有し、家庭での子育てにも活かしていくよう、具体的な関わり方や遊び方等をお伝えしていきます。
	(30) 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	—	▲	・普段の母子活動等の中で、関わり方、声のかけかた、褒めるポイント等を個々に合わせて確認を進めています。昨年に引き続き今年も褒め方についての研修を保護者研修で行っています。私たちもよりペアレントトレーニングを学び、見本となれるよう努めています。
	(31) 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	○	▲	・利用契約の際に説明しています。運営規定、重要事項説明書等に変更があれば、隨時説明し、同意をいただいています。私たち自身もより制度等への理解を深める取り組みを継続していきます。
	(32) 保護者に対して、面談・相談・助言等の支援が行われているか	○	○	・成長から見えてくる課題、家庭での不安、周囲との交流、就園や就学のこと等の希望や不安等の相談を聴き、どのように取り組んでいけるか話し合をしています。今後は、相談に対しての迅速な対応、具体的な内容の提示等ができるよう努めています。
	(33) 児童・保護者が一同に介する行事等の開催等により、保護者同士の連携・関係づくり等が支援されているか	○ 「土曜開所の機会があがたい」等との意見あり。	▲	・母子通所での活動が、保護者同士で繋がりをもつ機会になっています。 ・昨年に引き続き土曜開所日で親子行事や保護者同士で活動・交流する機会、保護者の研修機会等を提供しています。 ・交流や繋がり等がより広がるような内容等の検討を今後もしていきます。
	(34) 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○ 「受付体制が整備されていることは理解している」「送迎時のルールが周知されているのか」等の意見あり。	○	・苦情受付体制は契約時に説明しています。また、掲示、直接受付の実施予定等を月間カレンダー等で案内しています。今年度はコロナ禍もあり第三者委員の直接受付は中止しましたが、次年度も継続して取組んでいきます。 ・利用者の皆さまからの様々ご意見を、運営に活かしていくようより一層受付体制を示していきます。
	(35) 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果等を子どもや保護者に対して発信しているか	○	○	・主にホームページにて活動のトピックスを紹介しています。また連絡網を使用し開所のお知らせ等を配信し全体に周知されるよう取り組んでいます。今後は、ういる天童の療育内容の紹介等を掲載し、より広く皆さんに私共のサポートを知っていただけるよう努めています。
	(36) 個人情報に十分注意しているか	○	○	・個人情報は、保護規定に沿って管理しています。より安全に管理できるよう職員間や保護者の方とも確認をしています。今後も継続して管理できるよう職員教育の継続等、常に意識をもてるよう取り組んでいきたいと考えております。
	(37) 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	○	・個々に合った伝達方法を検討し、合理的配慮をもって伝えるようにしています。必要により言葉を補完するツール等も活用し、お子さんと繋がるための手立てをもって支援しています。 ・どのような配慮が必要かを確かめ、画一的な手段に偏ることがないように検証と実践を繰返しています。 ・母子間だから確認できていることも共有しながら、その子の意志や気持ちをしっかり受け取ることをとても大切にしております。
	(38) 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか	—	○	・今年はコロナ禍もあり大規模な行事は中止し、地域の子育てサロンへの参加も見送りました。その中でも、感染症対策の下で少人数で行ったAED講習会は、予定通り開催することができ、地域の方々に参加していただきました。 ・私たちも地域の一つの資源として活用していただけるよう、日頃からの挨拶や地域貢献活動等を継続して行っています。

非常時等の対応	③⁹ 緊急時対応や、防犯、感染症等への対応についての手引きを策定し、保護者に周知されているか	○ 「コロナ対策を徹底しているので安心しています。」等の意見あり	○	・緊急時や感染症等の対応マニュアルを整備し、業務上徹底して管理しています。特にコロナ禍では、消毒等の回数や対象を拡大し、手洗い、マスク、実測検温、生活行動等の確認、密を避けた活動管理等も取組み、安全安心な環境の維持に努めています。 ・保護者へのマニュアル配布はしていませんが、これらの内容がよりわかりやすく伝わるよう、事業所利用マニュアル等に具体的な説明や必要な事項等を入れ、説明しています。
	④⁰ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	○ 「まだ参加したことがないのでわからない」等との意見あり	○	・法定訓練として、年2回以上の避難訓練を実施しています。1週間訓練週間をとり、全利用児の方に参加していただいています。 ・今年度は、新型コロナ感染対応訓練も繰り返し行いながら、リスク管理体制の強化を図ってきました。引き続き、訓練内容や実施方法等の検討を重ね、有事に備えた実践を重ねていきます。
	④¹ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	-	○	・今年はコロナの影響で県主催の研修は中止となりましたが、年1回以上は、全職員に法人内・外で研修する機会を持っています。日常の活動の中での気付きを全体で共有し、虐待防止に努めています。
	④² どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	-	▲	・強度行動障害児等、活動に安全管理等が必要なケースは、具体的な対応等を計画に入れ、その内容を説明し、同意を取っています。また、対応の機会を作らないための支援を第一義とし、やむを得ず対応を要する時は、必要最小限の対応と支援内容の記録等を行える体制を整えています。 ・職員が上記の内容を正しく理解し、組織的な支援・環境の調整等を確認し徹底したリスク管理に努めていきたいと思います。
	④³ 食物アレルギーのある子どもについて、医師指示書に基づく対応がされているか	-	○	・食物アレルギーの有無等については、利用開始時に必ず確認しています。対象児は、医師の診断書の提出をいただき、提供する給食の成分表の3重チェック（保護者、事業所、給食業者）を行った上で提供しています。また、日常のおやつ等の提供時も、個々の情報を把握したリスク管理を行っています。
	④⁴ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	-	▲	・ヒヤリハット等は、職員間でチェックと共有をし、次回からの活動で調整をしています。リスク管理として安全な環境・職員の配置等を都度検討し対策をしていますが、より周知徹底が図られるよう継続して行う必要があると感じています。
満足度	④⁵ 子どもは通所を楽しみにしているか	○ 「イヤイヤ期には行き渋りもあったけど、最近は減ってきたようです。」「通所を楽しみにしている様子を感じ、父母もストレスなく通えています。」等との意見あり	▲	・ういる天童では母子通所、一時預かりのサービスを個々のお子さんに合わせて活動をしています。お子さんと関係性を築くために姿勢や視線を合わせること、楽しいと思う遊びは何か発見していきたいこと等を職員間で確認しています。 ・楽しく遊ぶ中でどんな関わりや声掛けが必要か、何を母子活動で伝えていくのかを考え、実践しています。今後、よりお子さんの成長や自信につながる有効な関わり方や機会のために細やかな対応ができるように努力しています。 ・療育を利用するとの意味を常に考え、活動に参加してくださる保護者の方の気持ちに寄り添った対応を高めていけるよう、今後より一層努めています。
	④⁶ 事業所の支援に満足しているか	○ 「細やかに情報共有でき、都度対応いただけて感謝しています。」等との意見あり	▲	ういる天童では母子療育を通して「子育てサポート」をしていきたいと思い活動しています。療育活動を通して未就学期に大切な学びの機会を母子活動で確認し、家庭での子育てを楽しめる時間を増やしていかなければと思います。私たち自身もどのような療育が求められているのか常に考え、より満足を高めていけるよう心掛けていきたいと思います。

職員の配置状況（令和3年2月10日現在）

施設長：1名、児童発達管理責任者：2名（施設長と兼務1、常勤専従1）、保育士：8名、児童指導員：5名

職員の資格 等（令和3年2月10日現在）

社会福祉士：2名、精神保健福祉士：1名、介護福祉士：4名、保育士：9名、児童指導員：4名、
強度行動障害支援者研修修了：4名、SST社会生活技能訓練：1名、リズム運動指導者研修修了者：2名
職場適応援助者（ジョブコーチ）：1名 など